

伊庭内湖に放流したホンモロコ発眼卵の生残率

三枝 仁・大江孝二・津村祐司・吉岡 剛・上垣雅史

◆ 背景・目的

ホンモロコ資源の回復を図るため、発眼卵の大量生産放流に取り組んでいる。放流事業の効率的展開を図るためには、放流効果の把握が必要である。そこで、発眼卵放流の効果を検証するため、標識放流調査を実施し、発眼卵放流後の生残率を調査した。

◆ 成果の内容・特徴

- ・ 放流には水産試験場で採卵した発眼卵を用い、ALC 標識を施した後、伊庭内湖湖岸に放流した（図1）。
- ・ 放流は、4月25日から5月31日の間に7回実施し、合計4,292千粒を放流した。また、発眼卵の生残数を推定するため、6月19日に琵琶湖栽培漁業センターが生産した20mmサイズ種苗83千尾を発眼卵放流地点に放流した。
- ・ 放流完了後、6月30日から7月23日までの間に計4日間、伊庭内湖内で小型ビームトロール網を操業し（図1）、採捕されたホンモロコ197尾について耳石標識を確認したところ、発眼卵放流魚が5尾、20mm種苗が5尾再捕されていた。
- ・ 上記結果から、ピーターセン法を用いて計算すると、発眼卵種苗の6月19日時点の生残数は83千尾、生残率は約1.93%と推定された（表1）。

◆ 成果の活用・留意点

- ・ 発眼卵放流の実施が複数回に分散したこと、採集できた標本数が少なかったことから、精度の高い推定が出来なかった。精度の向上を図り、より正確な放流効果の把握を実施する必要がある。

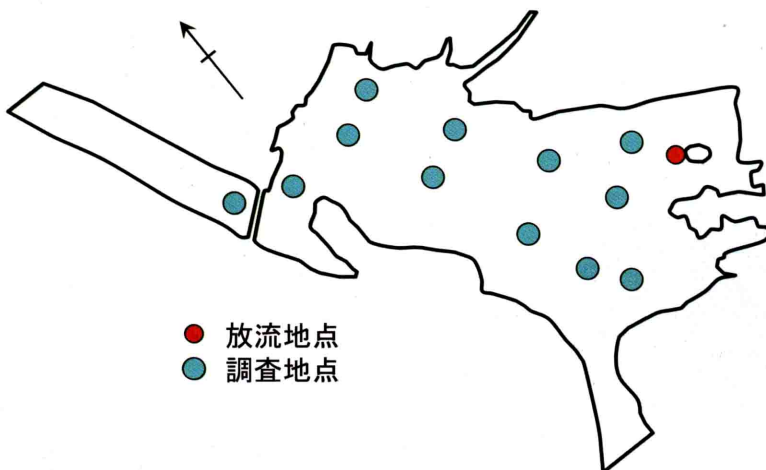


図1. 種苗放流地点と小型ビームトロール網調査地点

表1. ビームトロール網で再捕した標識種苗数と推定生残率

種苗種別	放流数	採捕尾数	推定生残数	生残率 (%)
発眼卵種苗	4,292,000	5	83,000	1.93
20mmサイズ種苗	83,000	5	83,000	100.00